

AICA

アイカ工業株式会社

2023年3月期 第2四半期 決算説明会

Change & Grow
2400 

2022年11月24日
証券コード：4206

アイカ工業の海老原でございます。

本日は当社の決算説明会にご参加いただきまして、
ありがとうございます。

それでは、
これより当社の決算の概況と、今後の事業展開につきまして
ご説明させていただきます。

1. 2023年3月期 第2四半期 実績
2. 2023年3月期 通期 計画
3. 化成品セグメントの商品群別実績および方策
4. 建装建材セグメントの商品群別実績および方策
5. 配当について
6. 中期経営計画 “Change & Grow 2400” の進捗

ご覧の目次に従って、

2023年3月期第2四半期の実績、
通期計画、
セグメントの実績および方策
配当、
中期経営計画の進捗

につきまして、ご説明いたします。

1-1. 連結決算の概要

AICA

	2022/3期 上半期		2023/3期 上半期				
	実績	利益率	計画	実績	利益率	伸率	達成率
売上高	98,650	-	112,000	117,704	-	19.3%	105.1%
営業利益	9,425	9.6%	9,500	9,437	8.0%	0.1%	99.3%
経常利益	10,156	10.3%	9,700	10,294	8.7%	1.4%	106.1%
四半期純利益※	6,267	6.4%	6,000	6,436	5.5%	2.7%	107.3%

※親会社株主に帰属する四半期純利益

[一株当たり単位：円]

一株当たり四半期純利益	95.98	-	93.81	100.62	-	4.8%	107.3%
-------------	-------	---	-------	--------	---	------	--------

- 連結業績：売上高は過去最高を更新、利益は前年を上回る
- 国内事業：非住宅市場の回復を背景に、化成品・建装建材ともに伸長
- 海外事業：AAP社が大幅に伸長、アイカアドテック社の新規連結も寄与
建装建材セグメントは中国ロックダウンの影響を受けるも他地域で伸長

※AAP社：アイカ・アジア・パシフィック社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

3

2023年3月期上半期の連結業績の概要は、ご覧の通りです。

売上高 1,177億 400万円、
 営業利益 94億 3,700万円、
 経常利益 102億 9,400万円、
 親会社株主に帰属する四半期純利益 64億 3,600万円
 となりました。

なお、「親会社株主に帰属する四半期純利益」につきましては、
 以後、「四半期純利益」と省略させていただきます。

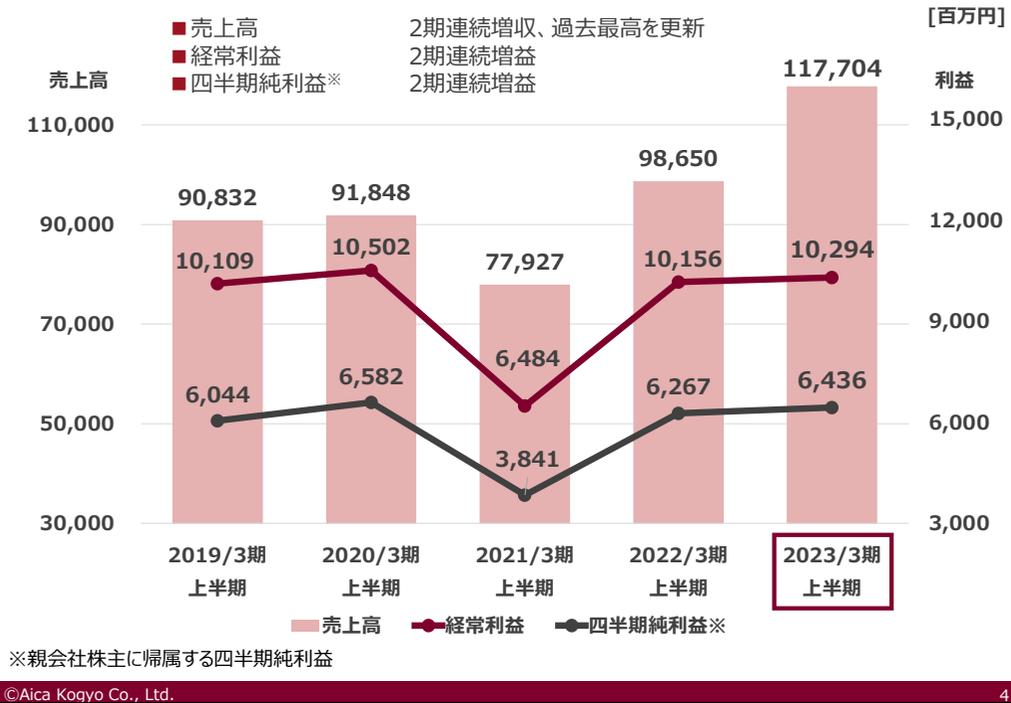
売上は 過去最高を更新、
 営業利益は 計画を下回りましたが、前年を上回りました。
 経常利益及び四半期純利益は 前年を上回り、計画も達成しました。

国内事業につきましては、
 住宅市場は前年をわずかに下回りましたが、非住宅市場が回復し、
 化成品セグメント、建装建材セグメントともに伸長しました。

また、海外事業につきましては、
 化成品セグメントにおいては、
 アイカ・アジア・パシフィック社、略してAAP社の伸長や
 アイカアドテック社の新規連結寄与もあり、大幅に伸長しました。
 建装建材セグメントにおいては、
 中国でロックダウンの影響を受けましたが、その他の地域で化粧板の販売が増加し、
 海外全体で売上を伸ばすことができました。

1-2. 連結決算の推移

AICA



直近5年間の上半期の
連結売上高、経常利益、四半期純利益の推移は
スライドの通りです。

前期にはコロナ影響からのV字回復を果たしております。

今期はそこから更に、増収増益となりました。

1-3. 主要項目の状況

	2021/3期 上半期	2022/3期 上半期	2023/3期 上半期
研究開発費	15.7億円	16.4億円	17.2億円
減価償却費	24.3億円	28.7億円	31.0億円
設備投資額	31.1億円	22.2億円	44.3億円
借入金残高	72.0億円	93.1億円	145.2億円
期末人員	4,780人	4,954人	4,971人
（国内）	1,641人	1,610人	1,608人
（海外）	3,139人	3,344人	3,363人

続きまして、研究開発費、減価償却費、設備投資額、借入金残高および期末人員の状況です。

2023年3月期上半期の設備投資額は、約44億円でした。

主なものとして、AAP社の中国における設備増強費用など、AAP社全体で約30億円を投資しました。

その他、アイカ工業での情報化投資で約3億円、生産設備で約4億円を投資しました。

1-4. セグメント別業績



[百万円]

	売上高					営業利益					
	2022/3期 上半期 実績	2023/3期 上半期 実績	伸率	2023/3期 上半期 計画	達成率	2022/3期 上半期 実績	2023/3期 上半期 実績	伸率	2023/3期 上半期 計画	達成率	
化成品	56,306	71,654	27.3%	67,500	106.2%	3,868	3,783	▲2.2%	3,600	105.1%	金額
						6.9%	5.3%	-	5.3%	-	利益率
建装建材	42,344	46,050	8.8%	44,500	103.5%	7,170	7,459	4.0%	7,600	98.2%	金額
						16.9%	16.2%	-	17.1%	-	利益率
(配賦不能営業費用)						▲1,612	▲1,804	11.9%	▲1,700	106.2%	金額
合計	98,650	117,704	19.3%	112,000	105.1%	9,425	9,437	0.1%	9,500	99.3%	金額
						9.6%	8.0%	-	8.5%	-	利益率

©Aica Kogyo Co., Ltd.

6

このスライドは、
セグメント別の売上高と営業利益です。

ここでは、営業利益の増減を中心に、ご説明させていただきます。

化成品セグメントの営業利益は、
37億8,300万円で計画の36億円を上回りました。
営業利益率につきましては、5.3%と計画通りとなりました。
その主な要因は、原材料・エネルギー価格の高騰に伴い、
価格転嫁を進めたことに加え、為替の影響も寄与しました。

建装建材セグメントの営業利益は、
74億5,900万円で計画の76億円を下回りました。
営業利益率につきましても16.2%と、計画の17.1%を下回りました。
その主な要因は、中国事業の停滞と
国内グループ会社における原材料高騰が影響しました。

1-5. セグメント別海外売上高

AICA

[億円]

	2022/3期 上半期実績		2023/3期 上半期実績		
	売上高	海外売上比率	売上高	伸率	海外売上比率
化成品	406.7	72.2%	537.9	32.2%	75.1%
建装建材	76.8	18.2%	83.5	8.7%	18.1%
合計	483.6	49.0%	621.4	28.5%	52.8%

©Aica Kogyo Co., Ltd.

7

こちらは、
セグメント別の海外売上高です。

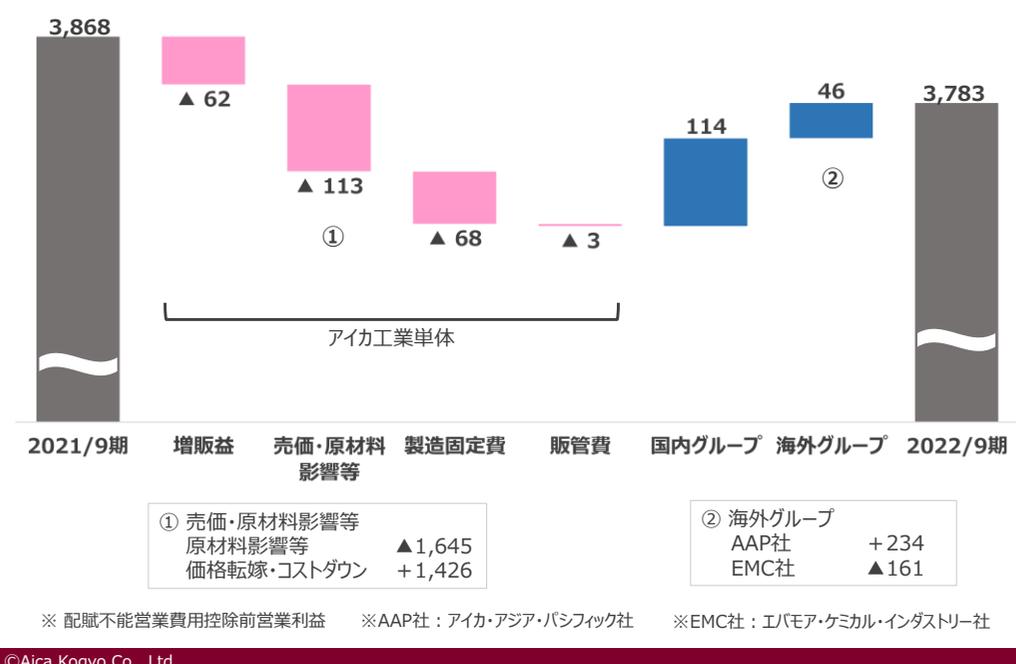
化成品は、
AAP社やエバモア・ケミカル・インダストリー社、略してEMC社の伸長、
アイカアドテック社の新規連結化および好調推移などにより、海外売上が増
加しました。

建装建材は、
インド、タイ、インドネシアなどで化粧板の販売が伸長し、
海外売上が増加しました。

1-6. 化成品セグメント 営業利益実績

AICA

[百万円]



このスライドは、化成品セグメントにおける営業利益の増減分析です。

利益の増加要因は、国内グループ会社、海外グループ会社の増益で、1億6,000万円、増加要因がありました。

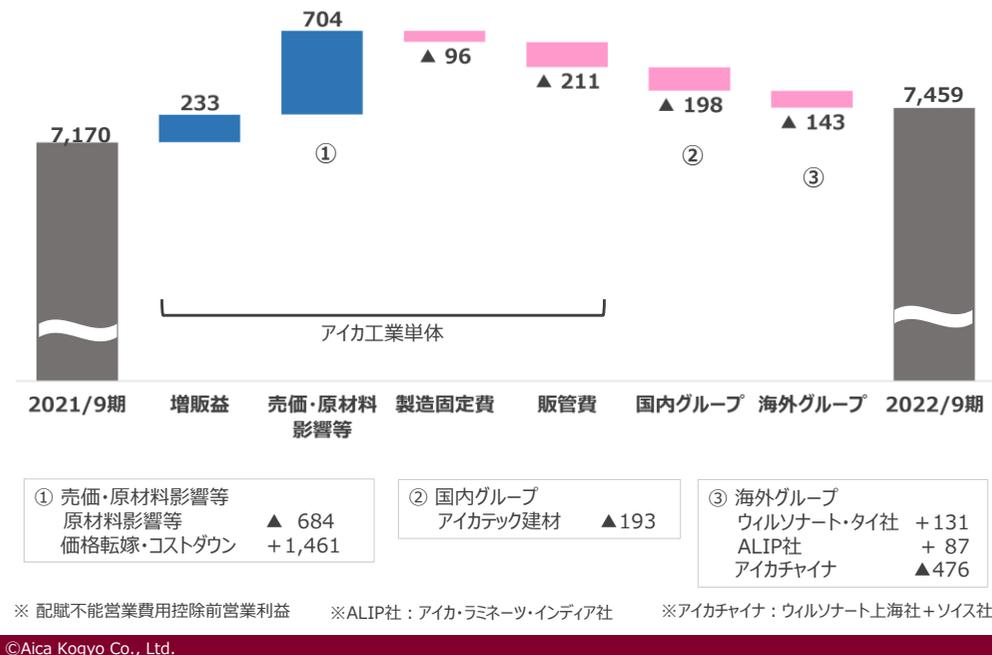
一方、減少要因は、アイカ工業単体の増販益減少、売価・原材料影響等の減少、製造固定費、販管費の増加などで2億4,600万円、減少要因がありました。

この結果、前年に対して、8,600万円、利益が減少しました。

1-7. 建装建材セグメント 営業利益実績



[百万円]



このスライドは、建装建材セグメントにおける営業利益の増減分析です。

利益の増加要因は、アイカ工業単体の増販益、売価・原材料影響等の増加で9億3,700万円、増加要因がありました。

一方、減少要因といたしましては、アイカ工業単体の製造固定費、販管費の増加や、国内グループ会社、海外グループ会社の減益などで6億4,800万円、減少要因がありました。

この結果、前年に対して、2億8,900万円、利益が増加しました。

1. 2023年3月期 第2四半期 実績
- 2. 2023年3月期 通期 計画**
3. 化成品セグメントの商品群別実績および方策
4. 建装建材セグメントの商品群別実績および方策
5. 配当について
6. 中期経営計画 “Change & Grow 2400” の進捗

続いて、
今期の通期業績計画につきまして
ご説明いたします。

2-1. 2023年3月期 経営環境予測

AICA

国内建設市場

※アイカ需要期へタイムラグ調整済み

2022年3月期（実績）	住宅： + 5.2%	非住宅： ▲ 1.0%
2023年3月期（期初予測）	住宅： ▲ 2.4%	非住宅： + 8.4%
2023年3月期（最新予測）	住宅： ▲ 0.6%	非住宅： + 8.1%

海外市場

景気停滞からの持ち直しが続くものの、中国ゼロコロナ政策など先行きは不透明

為替換算レート

※各国通貨建てのため、ドル建ての子会社は僅か

2022年3月期（実績）	1USD = 109.84円
2023年3月期（期初予測）	1USD = 120.00円
2023年3月期（最新予測）	1USD = 130.00円

国産ナフサ価格

※すべての原材料がナフサに連動するわけではない

	上半期	通期
2022年3月期	43,000円/kl（実績）	50,000円/kl（実績）
2023年3月期	75,500円/kl（実績）	76,750円/kl（最新予測）

©Aica Kogyo Co., Ltd.

11

今期の経営環境につきまして、

国内建設市場におきましては、

上半期の住宅着工戸数は、貸家は増加しましたが、持家が減少し、前年をわずかに下回りました。下半期も同様の傾向が続くと予測しています。

一方、非住宅市場につきましては、

工場、倉庫、医療福祉施設などの着工面積が増加し、上半期は前年を大きく上回りました。下半期は前年に大きく回復した反動から、伸びはやや落ち着くものと予測しています。

海外市場につきましては、

各地域で景気停滞からの持ち直しが続くものの

中国のゼロコロナ政策やウクライナ情勢の長期化など先行きは不透明な状況です。

また、為替の前提はご覧の通りです。

足場では円安が進行しており、期初予測より10円の円安を予測しております。

過度な円安は経済の混乱を招きかねないため、注視してまいります。

最後にナフサ価格です。

全ての原材料がナフサに連動するわけではありませんが、

前年を大きく上回る高騰が続いており、予断を許さない状況が続いております。

2-2. 2023年3月期計画

AICA

	2022/3期 実績		2023/3期 計画			[百万円]
	金額	利益率	金額	利益率	伸率	対前期 増減額
売上高	214,514	-	237,000	-	10.5%	22,485
営業利益	20,348	9.5%	21,500	9.1%	5.7%	1,151
経常利益	21,840	10.2%	22,000	9.3%	0.7%	159
当期純利益※	13,117	6.1%	13,300	5.6%	1.4%	182
ROE	9.4%	-	9%以上	-	-	-
ROA	5.9%	-	5.4%	-	-	-
一株当たり純利益	200.90円	-	207.95円	-	-	-
一株当たり株主資本	2,223.98円	-	2,300.00円	-	-	-
研究開発費	34.5億円	-	37.0億円	-	-	-
減価償却費	64.1億円	-	70.0億円	-	-	-
設備投資額	71.1億円	-	100.0億円	-	-	-

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

©Aica Kogyo Co., Ltd. 12

今期の通期業績計画はご覧のとおりです。

売上高につきましては、
 原材料・エネルギー価格の高騰分を販売価格に転嫁したことや
 円安による為替影響などから、
 期初の計画から上方修正しております。

一方、各利益につきましては、
 新型コロナウイルスの感染再拡大、高騰を続ける原材料・エネルギーコストなど
 先行きが不透明な状況のため、期初計画を据え置いております。

2-3. 2023年3月期 通期セグメント別業績計画

AICA

[百万円]

	売上高			営業利益			
	2022/3期 実績	2023/3期 計画	伸率	2022/3期 実績	2023/3期 計画	伸率	
化成品	122,323	139,000	13.6%	7,376	8,200	11.2%	金額
				6.0%	5.9%	-	利益率
建装建材	92,191	98,000	6.3%	16,379	17,000	3.8%	金額
				17.8%	17.3%	-	利益率
(配賦不能営業費用)				▲3,407	▲3,700	8.6%	金額
合計	214,514	237,000	10.5%	20,348	21,500	5.7%	金額
				9.5%	9.1%	-	利益率

©Aica Koavo Co., Ltd.

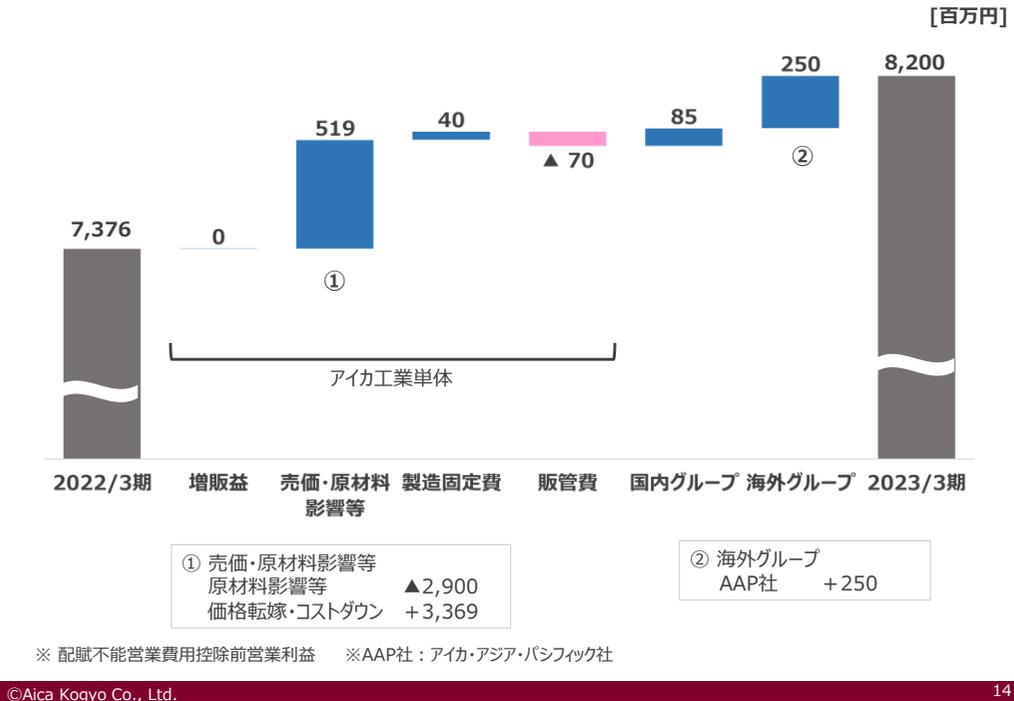
13

通期のセグメント別の売上高・営業利益の計画と、
前期との比較はスライドの通りです。

何れのセグメントも通期では増収増益を計画しております。

2-4. 化成品セグメント 営業利益計画

AICA



このスライドは、化成品セグメントにおける
今期の営業利益の増減計画です。

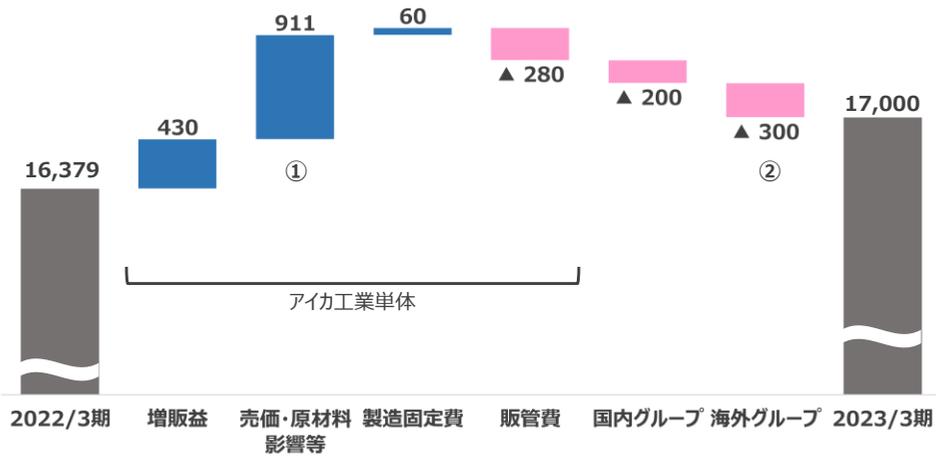
アイカ工業単体の売価・原材料影響等の増加、製造固定費の減少、
国内グループ会社および海外グループ会社の増益等を見込み、

全体で、営業利益は前年に対して
8億2,400万円、増加となる、
82億円を計画しております。

2-5. 建装建材セグメント 営業利益計画

AICA

[百万円]



① 売価・原材料影響等
 原材料影響等 ▲1,100
 価格転嫁・コストダウン +2,011

② 海外グループ
 ウィルソナート・タイ社 +200
 ALIP社 +120
 アイカチャイナ ▲775

※ 配賦不能営業費用控除前営業利益 ※ALIP社：アイカ・ラミネーツ・インディア社 ※アイカチャイナ：ウィルソナート上海社+ソイス社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

15

このスライドは、建装建材セグメントにおける
 今期の営業利益の増減計画です。

アイカ工業単体の販管費の増加、
 国内グループ会社および海外グループ会社の減益で
 7億8,000万円、減少を見込む一方で、

アイカ工業単体の増販益や売価・原材料影響等の増加、
 および製造固定費の削減で、
 14億100万円、増加を計画しております。

その結果、営業利益は前年に対して
 6億2,100万円、増加となる、
 170億円を計画しております。

1. 2023年3月期 第2四半期 実績
2. 2023年3月期 通期 計画
- 3. 化成品セグメントの商品群別実績および方策**
4. 建装建材セグメントの商品群別実績および方策
5. 配当について
6. 中期経営計画 “Change & Grow 2400” の進捗

続いて、
セグメント別の商品群別実績と方策を
ご説明いたします。

3-1. 化成品セグメント 商品群別売上実績および計画



[億円]

	2022/3期 (実績)		2023/3期 (実績・計画)			
	上半期	通期	上半期 実績	伸率	通期 計画	伸率
接着剤 (うちAAP社)	354.3 (286.3)	785.6 (643.2)	485.5 (404.3)	37.0% (41.2%)	933.0 (774.4)	18.8% (20.4%)
建設樹脂	44.3	92.2	47.9	8.0%	97.2	5.3%
機能材料	105.2	217.0	115.9	10.1%	236.9	9.2%
その他	59.1	128.3	67.1	13.6%	122.9	▲4.2%
合計	563.0	1,223.2	716.5	27.3%	1,390.0	13.6%

※AAP社：アイカ・アジア・パシフィック社

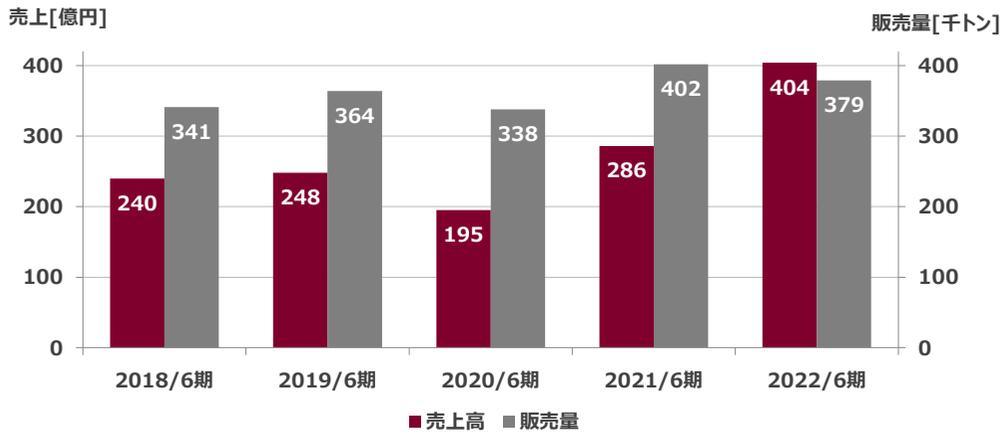
まず、
化成品セグメントです。

このセグメントは、
「接着剤」、「建設樹脂」、
非建設分野として注力している「機能材料」などで
構成しています。

第2四半期の実績および、通期の計画はご覧のとおりです。

3-2. 化成品セグメント 売上実績 (AAP社)

AICA



AAP社：売上+41% 販売量▲6%

価格転嫁、新規連結効果、為替影響により増収
販売量は中国・インドネシア・マレーシアなどで伸長もタイ・ベトナムで減少
竹材用フェノール樹脂、前期に新規連結したアイカアドテック社は好調

※AAP社：アイカ・アジア・パンフィック社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

18

海外につきましては、
AAP社において大幅な増収となりました。

全体の販売量は減少しましたが、価格転嫁がタイムリーに進んだことに加え、
前期に新規連結したアイカアドテック社が好調に推移、
また円安による為替影響も加わり、売上高は前年比で41%増加しました。

主要な市場である中国では、ロックダウンの影響は軽微にとどまり、
環境対応型の竹材用フェノール樹脂が大きく伸長しました。

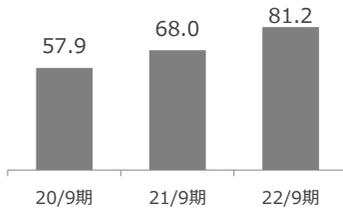
3-3. 化成品セグメント 売上実績 (AAP社以外)

AICA

[億円]

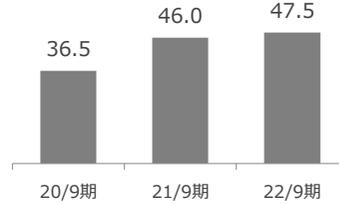
接着剤 (AAP以外)

各種接着剤・フェノール樹脂など



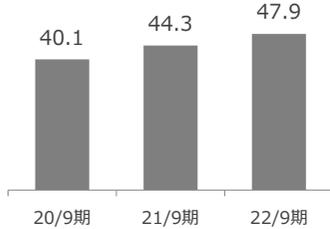
機能材料 (国内)

ホットメルト・機能性アクリル・UV樹脂・有機微粒子など



建設樹脂

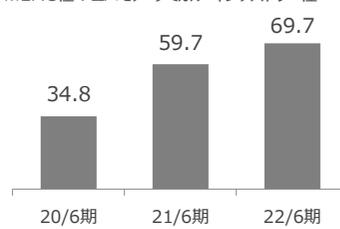
塗り壁材・塗り床材・補修補強材



EMC社※

ウレタン樹脂・UV樹脂など

※EMC社：エバモア・ケミカル・インダストリー社



©Aica Kogyo Co., Ltd.

19

続いて、
AAPを除いた接着剤では、
施工用接着剤、集成材用接着剤、産業用フェノール樹脂が
好調に推移し、売上は前年を上回りました。

建設樹脂は、
橋梁・土木用の補修補強材が前年を下回りましたが、
外装・内装仕上塗材「ジオリパット」と、
日本における工場の国内回帰により工場・倉庫向け塗り床材が
好調に推移し、売上は前年を上回りました。

国内の機能材料事業は、
ホットメルト・機能性アクリルが伸び悩みましたが、
電子材料用のUV樹脂が好調に推移しました。

EMC社は、
前期にコベストロレジン社より譲り受けた大園工場が寄与したほか、
円安による為替影響も加わり、売上は前年を上回りました。

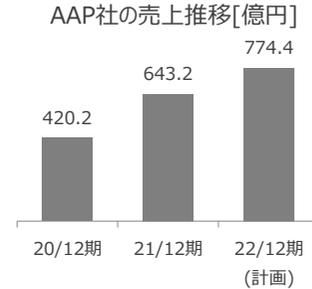
3-4. 化成品セグメント 方策 (AAP社)

AAP社

- アイカドンナイ社の生産設備投資
 - ・ 合板向けフェノール樹脂の生産を新規開始
 - ・ 将来的にベトナムNo.1メーカーへ
 - ・ 設備投資額 約3億円
 - ・ 2023年1-3月 稼働開始予定



- アイカハチャイ社の研究設備投資
 - ・ パーチクルボード、MDF用樹脂の研究開発拠点を新たに設置
 - ・ 研究開発のスピードアップ、顧客対応力向上
 - ・ 設備投資額 約3億円
 - ・ 2023年12月 完成予定



積極的な設備投資により、将来的な販売量増加・新規顧客獲得へ
AAP社 通期売上計画 : 774.4億円 (前年比 +20.4%)

※AAP社 : アイカ・アジア・パシフィック社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

20

続きまして、今後の重点方策につきましてご説明します。

ベトナムのアイカドンナイ社では、新たにフェノール樹脂の生産を開始すべく、設備を導入いたします。これまで、アイカシンガポール社で製造したフェノール樹脂を輸入してベトナムで販売してきましたが、今後の需要増加が見込まれるベトナムにおいて早期の参入を図り、ベトナム No 1 のフェノール樹脂メーカーになることを目指します。

また、タイのアイカハチャイ社においては、研究拠点を新設します。従来はシンガポールで対応していた研究開発を現地で行うことにより、顧客要望のカスタマイズ品の開発期間を短縮することができます。パーチクルボードおよびMDF用樹脂の製造において、AAP内で最大の能力を持つアイカハチャイ社の競争力向上に繋がります。

3-5. 化成品セグメント 方策（接着剤・建設樹脂）

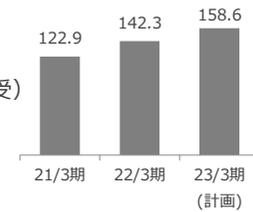
AICA

接着剤(AAP社以外)

- 梱包用ホットメルトの拡大・実績化（AAP社、アドテック社シナジー）
- 接着剤用、摩擦材用、砥石用途フェノール樹脂の実績拡大（DIC社より譲受）
- 利益創出（売価転嫁、品番統合）

※AAP社：アイカ・アジア・パシフィック社

接着剤国内の売上推移[億円]

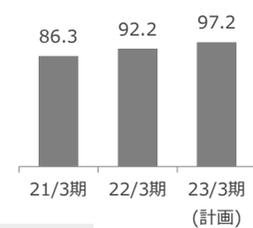


接着剤(AAP社以外) 通期売上計画：158.6億円(前年比 +11.5%)

建設樹脂

- 透湿外断熱システム「パッシブウォール」の拡販
- 改修向け塗り壁材の拡販強化（ジョリパットリニューアル工法等）
- 塗り床材、補修補強材の設計活動強化
- 市場への売価転嫁

建設樹脂の売上推移[億円]



建設樹脂 通期売上計画：97.2億円(前年比 +5.3%)

©Aica Kogyo Co., Ltd.

21

AAP社以外の接着剤につきましては、
AAP社とのシナジーやM&A効果の創出に注力します。
また、売価転嫁や品番統合などにより、利益創出の拡大に努めます。

建設樹脂につきましては、
住宅などの外壁に使われる透湿外断熱システム「パッシブウォール」を拡販します。
また、8月にジョリパットによるサイディング外壁専用の改修工法
「ジョリパット リニューアル工法」を発売いたしました。
近年、改修用途のラインナップを拡充しております。
底堅い住宅のリフォーム需要を取り込んでまいります。

工場や倉庫に使われる塗り床材や、
老朽化したトンネルや橋梁、建物外壁などの補修補強材は、
設計事務所への営業活動の強化により、売上拡大を図ってまいります。

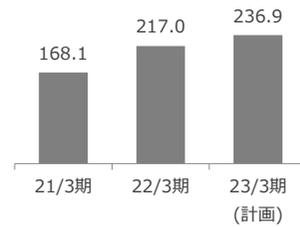
3-6. 化成品セグメント 方策（機能材料）

AICA

機能材料（国内）

- ホットメルトの拡販（自動車用途、建材用途）
- 機能性フィルムの拡大
（車載ディスプレイ用反射防止フィルム、3次元加飾フィルム）

機能材料の売上推移[億円]



EMC社

- 大園工場のシナジー創出、UVコーティング事業拡大
 - ・ 2021年7月にコバストロレジソ社より譲り受け、販売好調
- EMC社の南投工場にてUVEモノマーの第3製造ライン設置
 - ・ 大園工場で製造しているUVコーティング剤の原材料としても南投工場のモノマーを使用
 - ・ 顧客のニーズの高まりにより、生産能力を1.6倍に拡大
 - ・ 2024年1月 稼働開始予定



UVコーティング剤 使用例（ラベル用）

機能材料 通期売上計画：236.9億円（前年比+9.2%）

※EMC社：エプマア・ケミカル・インダストリー社

©Aica Kogyo Co., Ltd.

22

続きまして、機能材料事業です。

国内につきましては、
自動車用途や建材用途のホットメルトの売上拡大を図ります。
また、10月には「車載ディスプレイ用反射防止フィルム」を発売しました。
この製品や3次元加飾フィルムなどの拡販に努め、
機能性フィルムの拡大を図ります。

EMC社におきましては、
拡大が見込めるパッケージ市場において、
昨年譲り受けた大園工場のUVコーティング事業を強化してまいります。

また、南投工場において設備投資を実施します。
こちらで製造しているモノマーは、内販・外販ともに需要が高まっておりますので、
ライン増設により、逼迫しているキャパシティを1.6倍に拡大いたします。

1. 2023年3月期 第2四半期 実績
2. 2023年3月期 通期 計画
3. 化成品セグメントの商品群別実績および方策
- 4. 建装建材セグメントの商品群別実績および方策**
5. 配当について
6. 中期経営計画 “Change & Grow 2400” の進捗

続いて、
建装建材セグメントの商品群別実績と方策を
ご説明いたします。

4-1. 建装建材セグメント 商品群別売上実績および計画



[億円]

	2022/3期 (実績)		2023/3期 (実績・計画)			
	上半期	通期	上半期 実績	伸率	通期 計画	伸率
メラミン化粧板	131.2	289.3	141.0	7.5%	314.1	8.6%
ボード フィルム等	54.0	114.5	58.3	8.0%	120.0	4.8%
セラール	95.5	209.1	101.4	6.2%	218.8	4.6%
不燃建材	36.9	79.0	38.5	4.4%	81.0	2.5%
カウンター ポストフォーム	83.9	182.1	98.3	17.1%	200.5	10.1%
建具 インテリア建材	21.8	47.5	22.7	4.3%	45.6	▲4.2%
合計	423.4	921.9	460.5	8.8%	980.0	6.3%

©Aica Kogyo Co., Ltd.

24

このセグメントは、「メラミン化粧板」、「ボード・フィルム等」、
「セラール」、「不燃建材」、「カウンター・ポストフォーム」、
「建具・インテリア建材」
で構成しています。

第2四半期の実績および、通期の計画は、ご覧のとおりです。

4-2. 建装建材セグメント 実績（国内）

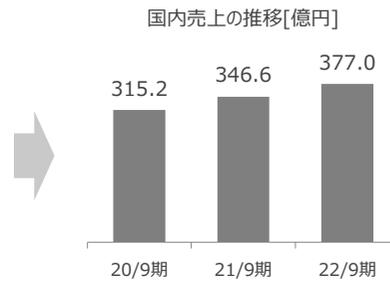
■ 国内建設市場の市場環境

上半期：住宅は前期好調の反動、非住宅は回復

上半期予測 住宅：▲1.6%、非住宅：+12.9%

上半期実績 住宅：▲0.3%、非住宅：+12.6%

※当社需要期へタイムラグ調整済み



■ 2023年3月期上半期 好調であった商品

洗面化粧台 スマートサニタリー



高級人造石 フィオレストーン



クチーナ大阪ショールーム
設計/クチーナ大阪、(株)モーリショップ

建装建材セグメントの国内事業です。

国内建設市場につきましては、住宅は前期が好調であった反動から僅かに落ち込みましたが、非住宅に大きな回復がみられました。価格転嫁を進めたことも寄与し、国内の売上は前年を上回りました。

また、商品毎の動向では、「スマートサニタリー」と「フィオレストーン」の好調が継続しました。

「スマートサニタリー」は新しい生活様式に対応した洗面化粧台としてお施主様によるSNSへの投稿から人気に火がついた商品で、今後も拡販が期待できます。

「フィオレストーン」はキッチンの天板などで使用される高級人造石として好評を博しております。

4-3. 建装建材セグメント 方策（国内）

AICA

AS商品の拡販

抗ウイルス建材「ウイルテクト」



群馬大学共同教育学部附属小学校 南校舎
設計/株式会社 勝山工務店
施工/株式会社 サンビック

高級人造石「フィオレストーン」



■ 抗ウイルス建材「ウイルテクト」の拡販

- ・ 上半期売上：5.1億円（前年比+49%）
- ・ オフィス、医療、教育施設への設計活動強化

■ ストーン事業製品

（人造石+人工大理石+セラミックタイル）の拡販

- ・ 上半期売上：32.2億円（前年比+22%）
- ・ ゼネコンへの設計活動強化

住宅向け商品の強化

■ 洗面化粧台「スマートサニタリー」の拡充

- ・ 上半期売上：4.6億円（前年比+85%）
- ・ アイテム拡充による新規ユーザー獲得

■ メラミン化粧板貼りエッジ塗装カウンター

「バリューエッジカウンター」の強化

- ・ 上半期売上：7.6億円（前年比+7.1%）
- ・ 新規カタログ「おうちプラスキッチンカウンター」による拡販



洗面化粧台
スマートサニタリー



メラミン化粧板貼りエッジ塗装カウンター
バリューエッジカウンター

©Aica Kogyo Co., Ltd.

26

建装建材セグメント・国内事業の方策として以下に注力しております。

国内における最注力事項は、社会課題を解決するAS商品の拡販です。

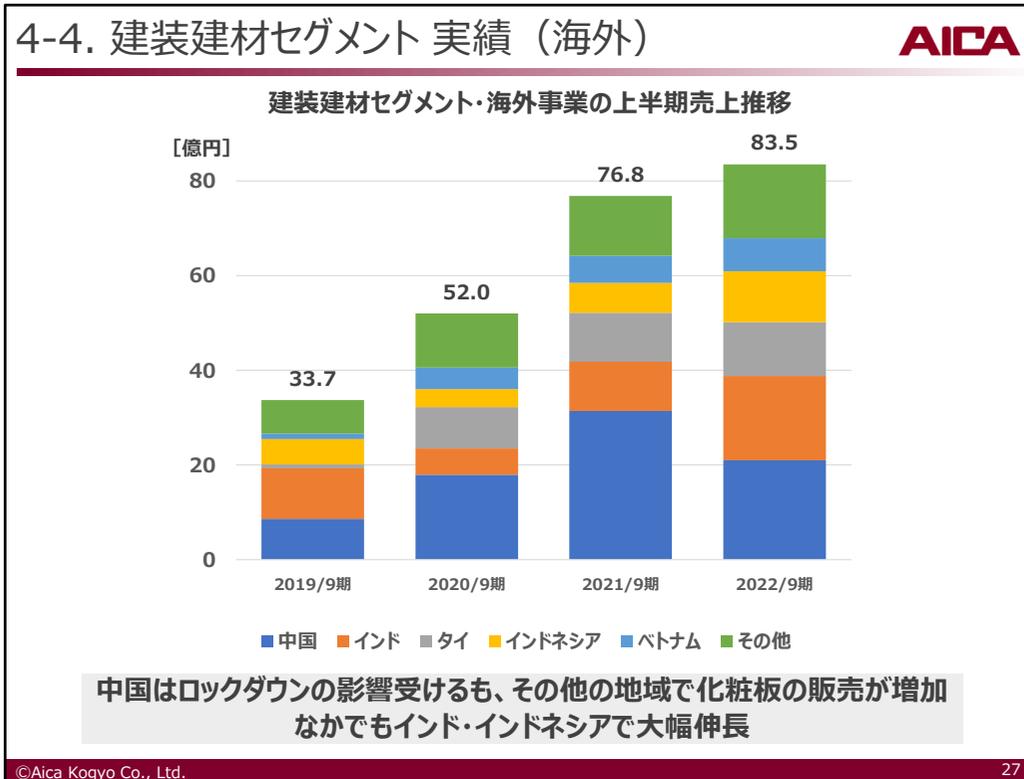
抗ウイルス建材「ウイルテクト」シリーズや高級人造石「フィオレストーン」などは、設計事務所への営業活動の強化により、拡販してまいります。

また、洗面化粧台「スマートサニタリー」シリーズに、オープンスタイルで自分好みにコーディネートできる造作風洗面化粧台「スマートサニタリーU」を追加しました。

さらに、戸建てやマンションのキッチンカウンターに使用される「バリューエッジカウンター」や「フィオレストーン」などの拡販ツールとして、新規カタログを発刊しました。

住宅メーカーやビルダー、工務店を対象に提案し、住宅向け商品の拡販を図ります。

4-4. 建装建材セグメント 実績（海外）



建装建材セグメントの海外事業につきましては、増収となりました。

中国は、前年を下回りましたが、
その他の主要な地域では、
何れも化粧板販売の増加により前年を上回りました。
なかでもインド・インドネシアでは、
アフターコロナのリカバリー需要を着実に獲得できており、
大幅に伸長しました。

ジャパンテクノロジーの海外グループ会社への展開加速

- 中国・タイ・ベトナム・インドネシア・インドの各生産拠点を活用した地産地消型ビジネスの推進
- 生産体制増強・効率化（中国・インド・ベトナム）
- ウィルソナート社の販路を活用したアイカの高付加価値商品の投入・ブランド浸透

アイカ・ラミネーツ・ベトナム社（ALV）の設備投資



- 化粧板の製造設備を増設
- ALV社の生産能力を2倍に引き上げ
- アジア地域の需要増加に対応
- 設備投資額 約12億円
- 2024年1月 稼働開始予定

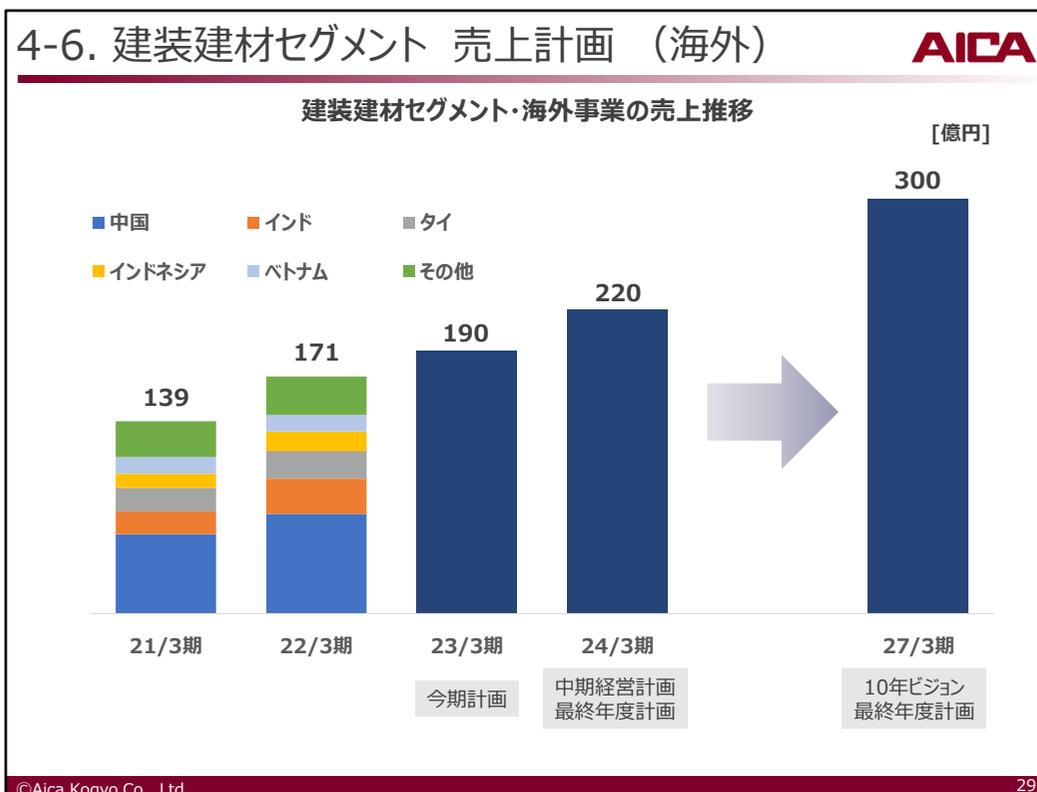
建装建材セグメント海外事業の今後の方策です。

ジャパンテクノロジーを海外のグループ会社に移植することで地産地消ビジネスを推進するとともに、生産体制の増強やウィルソナート社が有する販路の活用などに取り組みます。

また、アイカ・ラミネーツ・ベトナム、ALV社では、化粧板の増産設備投資を実施します。アジア地域の旺盛な需要に加えて、日本国内における需給バランスの逼迫も想定されることから、ALVにおける生産能力を2倍に引き上げます。

ベトナムだけでなくアジア地域の需要増加に対応していきます。

4-6. 建装建材セグメント 売上計画（海外）



これらの方策により、当社の建装建材事業の海外売上高は、今期190億円を見込んでいます。

中期経営計画最終年度の2024年3月期には売上高220億円、10年ビジョン最終年度の2027年3月期には売上高300億円を目指す計画です。

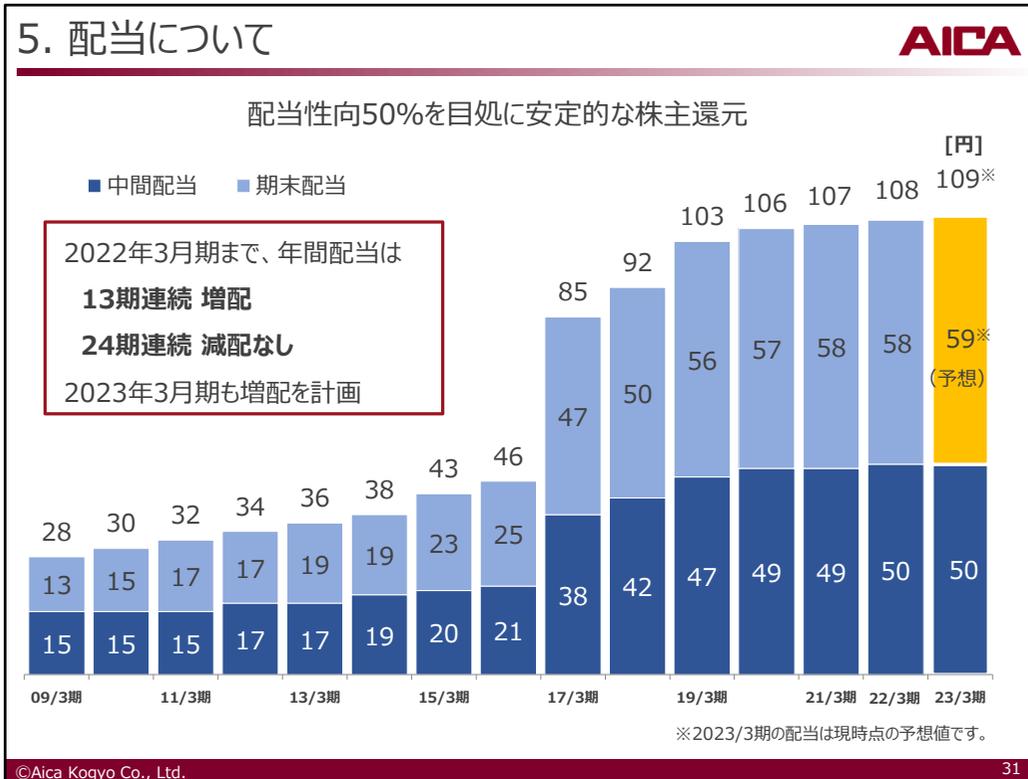
新型コロナウイルスの影響により、一時的に景気は減速しましたが、中長期的に見れば、アジアの建築物では高意匠化・高品質化が進んでいきます。

当社グループは、その市場で確固たる地位を築いてまいります。

1. 2023年3月期 第2四半期 実績
2. 2023年3月期 通期 計画
3. 化成品セグメントの商品群別実績および方策
4. 建装建材セグメントの商品群別実績および方策
- 5. 配当について**
6. 中期経営計画 “Change & Grow 2400” の進捗

続いて、配当につきましてご説明いたします。

5. 配当について



当社は、株主の皆さまへの利益還元と会社の持続的な成長を実現するため、各期の連結業績、配当性向および内部留保を総合的に勘案した上で、配当を行っております。

この中期経営計画においても、連結配当性向50%を目処に、安定的な株主還元を実施していく予定です。

国際情勢、新型コロナウイルス感染再拡大、原材料・エネルギー価格の高騰など先行き不透明な部分もありますが、今期も、1円増配の1株当たり109円を予想しております。

1. 2023年3月期 第2四半期 実績
2. 2023年3月期 通期 計画
3. 化成品セグメントの商品群別実績および方策
4. 建装建材セグメントの商品群別実績および方策
5. 配当について
- 6. 中期経営計画 “Change & Grow 2400” の進捗**

続きまして、
中期経営計画「Change & Grow 2400」の進捗につきまして
ご説明いたします。

6-1. 中期経営計画(2022/3期-2024/3期) 進捗

AICA

[億円]

項目	前中計	1年目	2年目			3年目
	2021/3期 (実績)	2022/3期 (実績)	2023/3期 上半期 (実績)	2023/3期 通期 (期初計画)	2023/3期 通期 (最新計画)	2024/3期 (策定時計画)
R O E	8.1%	9.4%	-	9%以上	9%以上	10%を目処
海外+機能材料 売上高 ^{※1}	812	1,147	670	1,250	1,330	1,150
AS商品 ^{※2} 売上高 ^{※1}	155	169	87	180	180	210
経常利益	184	218	102	220	220	240
売上高	1,746	2,145	1,177	2,250	2,370	2,400

※1 連結消去前単純合算売上高

※2 AICA Solution 商品の略。様々な社会課題を解決する商品

©Aica Kogyo Co., Ltd.

33

財務目標に対する進捗は、ご覧の通りです。

中計2年目となる今期は、計画に対して順調に進捗しております。
売上高の上方修正に伴い、
「海外および機能材料売上高」の計画値も上方修正しております。

最終年度である2024年3月期の目標につきましても
達成を目指してまいります。

人材育成・組織開発

- 部門別、階層別スキルリストの作成・運用
 - ・ アイカ工業におけるスキルリスト案完成。グループ全体のサクセッションプランの策定完了
- 従業員満足度調査のグループ全社での実施・活用
 - ・ アイカ工業および国内グループ会社にて調査実施
 - ・ 海外グループ会社については今年中に実施予定

気候変動対応

- TCFD提言に基づく情報開示拡充に向けて
 - ・ 気候変動シナリオ分析を実施、定性評価が完了
 - ・ 今年度中に財務インパクト評価を実施予定
- インターナルカーボンプライシング(ICP)制度導入
 - ・ 2022年4月より、CO₂削減に寄与する設備投資を対象に導入
 - ・ ICP単価は、設備の導入時期および導入設備の耐用年数によって変動する仕組み

非財務については、
中期経営計画で設定した重要課題、いわゆるマテリアリティを中心に遂行しております。
トピックスのみお伝えいたします。

人材育成・組織開発は、特に重要なテーマとして認識しております。
マテリアリティのKPIにも掲げている
「部門別、階層別スキルリストの作成・運用」や
「従業員満足度調査のグループ全社での実施・活用」は順調に進捗しております。

さらに、気候変動対応についても注力しております。
TCFD提言に基づく気候変動シナリオ分析を実施いたしました。
今年度中に財務インパクト評価を実施する予定です。

また、インターナルカーボンプライシング制度を導入いたしました。
効果が見えにくい傾向にある環境投資などに対して、
価値を見える化することで、将来を見据えた設備投資を推進します。



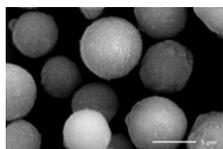
■ 自動車内装向け3次元加飾フィルムをバイオマス化

- ・ バイオマス度30～40%を実現しており、地球環境にやさしい商品
- ・ 塗装代替(= 3次元加飾フィルム)で自動車製造工程におけるCO₂排出量を削減

■ リグニンフェノール樹脂を使用した合板・LVL用接着剤を実用化

- ・ 植物由来の非可食性バイオマス原料リグニンを有効活用
- ・ バイオマスマーク(バイオマス度15%)を取得。サステナブルなものづくりに貢献

※ LVL : Laminated Veneer Lumber、単板積層材



■ 有機微粒子「ガンツパール」に3種のサステナブルタイプを追加

- ・ 植物由来・天然物由来原料を使用
- ・ 地球環境に配慮した化粧品づくりに貢献

■ バイオマス原料を使用したホットメルト粘着剤を開発

- ・ 溶剤不使用の粘着剤「アイカメルト」シリーズがさらに進化
- ・ バイオマス度50%。非可食性のバイオマス原料を使用



また、気候変動問題に対応した商品群の開発にも注力しております。

こちらは、今期上半期に開発した商品です。

植物由来などのバイオマス原料を用いた各種製品の開発に成功しております。
自動車内装向け3次元加飾フィルム、合板・LVL用接着剤、
有機微粒子、ホットメルト粘着剤など、
さまざまな製品でサステナブルな原料の使用およびバイオマス化が進んでおります。

当社は今後も、
サステナブル素材を使用した製品や温室効果ガスの削減に
寄与する商品を開発し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

Change & Grow 2400

The logo consists of two interlocking circles. The left circle is a gradient from purple to red, and the right circle is a gradient from blue to green.

アイカ工業株式会社

本資料に掲載されているアイカ工業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。
これらの情報は、現在入手可能な情報からアイカ工業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。
また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

以上で私の説明を終了させていただきます。

今後とも、継続的に情報開示に努めてまいりますので、
何卒、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。